見直しのイメージ（平成 20 年試験問題を例にした場合）

設 計 課 題　ビジネスホテルとフィットネスクラブからなる複合施設

Ⅰ．設 計 条 件

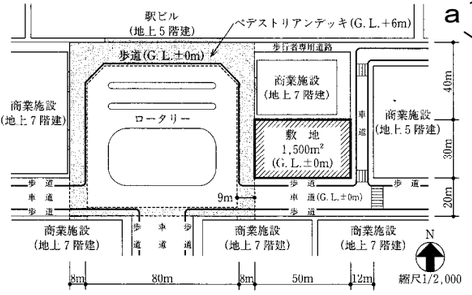
この課題は、ある地方都市の中心市街地において、ビジネスの拠点となる駅前に建つ、「ビジネスホテル」と「フィットネスクラブ」からなる複合施設を計画するものである。また、この建築物は、２階において駅と連結するペデストリアンデッキからもアクセスできるように計画するとともに、高齢者、障害者等の利用に配慮した計画とする。

計画に当たっては、特に次のことが求められている。

① ホテル部門、フィットネスクラブ部門及び共用部門の異なる機能を適切にゾーニングした計画とするとともに、各部門の動線に配慮した計画とする。
② １階及び２階のエントランスホールは、２階でペデストリアンデッキと、１階で歩道とそれぞれ接続し、エントランスホールに設けるエスカレーター及びエレベーターを利用して、常時、自由に通り抜けができる計画とする。
③ 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画する。
④ 建築物の環境負荷低減に配慮した計画とする。

1．敷地及び周辺条件

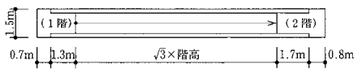
(1) 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
　① 北側 ―― 商業施設(地上７階建)がある。
　② 東側 ―― 道路(幅員12m)を挟んで商業施設(地上５階建)がある。
　③ 南側 ―― 道路(幅員20m)を挟んで商業施設(地上７階建)がある。
　④ 西側 ―― 歩道(幅員８m)を挟んでロータリーがあり、上部にペデストリアンデッキ(幅員９m)がある。
(2) 敷地は、平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとし、ペデストリアンデッキは敷地から６m高い位置にある。また、歩道の切り開きは、１箇所当たり６mまでできるものとする。
(3) 敷地は、商業地域及び準防火地域に指定されている。また、建ぺい率の限度は90%(特定行政庁が指定した角地における加算を含む。)、容積率の限度は500%である。
(4) 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
(5) 地盤は良好である。
(6) 気候は温暖で、積雪についての特別の配慮はしなくてよい。



(注１) 部分はペデストリアンデッキを示す。
(注２) ペデストリアンデッキの階段及びエレベーターについては省略している。

2．建 築 物

(1) ラーメン構造による鉄筋コンクリート造とし、一部、他の構造種別と併用してもよいものとする。ただし、その場合は、「Ⅱ－２．計画の要点等」の「②構造計画について、特に配慮したこと」にその理由を記入する。
(2) 地下１階、地上７階建ての１棟の建築物とし、地下１階を除く床面積の合計は、6,000m²以下とする。
　この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー、屋外階段等は、床面積に算入しないものとする。
(3) 構造計画については、１・２階部分と３～７階部分が、構造的に整合性のある計画とする。
(4) 設備については、次のとおりとする。
　① エスカレーターについては、エントランスホールに上昇用、下降用を各１基(１基当たり幅1.5m、勾配30度)設ける。



エスカレーター概略図

　② エレベーターについては、次のとおり設ける。
　　イ．エントランスホールに１基(１～２階)
　　ロ．ホテル部門の宿泊者用に２基(２－７階)
　　ハ．ホテル部門のサービス用に１基(１～７階)
　　ニ．フィットネスクラブ部門に１基(１～２階)
　③ その他の設備(空気調和・衛生設備、電気設備)については、適切に計画する。

3．その他の施設等

(1) 駐車場は、地上に平面駐車とし、車いす使用者用として２台分、サービス用として１台分を設ける。
　また、利用者用及び従業員用の駐車場については、近隣の公共駐車場を利用するものとし、考慮しなくてよい。
(2) 駐輪場は、近隣の公共駐輪場を利用するものとし、考慮しなくてよい。
(3) (1)の「駐車場」は、床面積に算入しないものとする。

4．所 要 室

下表の室は、すべて計画する。

部門	室名	床面積	設置階	特記事項
ホテル部門	フロント・事務室	約 50m²	2 階	・フロントにカウンターを設ける。
	ロビー	約 100m²	2 階	・２階のエントランスホールからアクセスする。 ・ソファー等を設ける。
	客室 シングル（計 90 室）	計約1,440m²	3 ～ 7 階	・各階に18室(約16m²／１室)設ける。
	客室 ツイン（計 15 室）	計約 360m²	3 ～ 7 階	・各階に３室(約24m²／１室)設ける。
	客室 車いす使用者用（計 5 室）	計約 120m²	3 ～ 7 階	・各階に１室(約24m²／１室)設ける。
	リネン室	適 宜	3 ～ 7 階	
	従業員控室	適 宜	1 階又は２階	・ホテル部門の従業員用として、男性用、女性用を各１室設ける。
フィットネスクラブ部門	・床足又は上履きで利用する計画とする。			
	受付ホール	約 70m²	1 階	・１階のエントランスホールからアクセスする。 ・受付カウンター、下足箱、ソファー等を設ける。
	スタッフルーム	約 40m²	1 階	・受付ホールに隣接させる。
	ロッカールーム	約 200m²	1 階又は２階	・屋内プールへ直接行き来できるようにする。 ・男性用、女性用を各１室(約100m²／１室)設ける。 ・ロッカー、シャワーブース、洗面台、便所を設ける。
	トレーニングルーム	約 200m²	1 階又は２階	・受付カウンターを設ける。 ・各種運動器具を利用して、トレーニングを行う。
	エアロビクススタジオ	約 100m²	1 階又は２階	・壁の一面に鏡を設ける。
	屋内プール	約 350m²	1 階又は２階	・プールは、長さ20m、幅８m、最深1.2mとする。 ・受付カウンター及び採暖室を設ける。
共用部門	エントランスホール	適 宜	1 ～ 2 階	・各階に風除室を設ける。 ・エスカレーター及びエレベーターを設ける。
	コーヒーショップ	約 100m²	1 階又は２階	・エントランスホールに隣接させる。 ・カウンター、テーブル、いす等を設ける。
	荷解き室	適 宜	1 階	・サービス用駐車場からの搬出入に配慮する。 ・ゴミ庫を設ける。
	従業員出入口	適 宜	1 階	
	守衛室	適 宜	1 階	・従業員出入口に隣接させる。
	電気・機械室	約 300m²	地下 1 階	・ドライエリアを付設する。 ・屋内プールの機械室を兼ねる。
・便所及び倉庫については、適切に計画する。				

(注) 上記の床面積の合計(地下１階及び遡宜を除く。)は、約3,130m²となる。

Ⅱ．要 求 図 面 等

設計製図答案用紙の定められた枠内(寸法線は枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1．要求図面

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい。)、必要な事項を記入する。

図面及び縮尺	特記事項
(1) １階平面図兼配置図 1/200	① 建築物の主要寸法(柱割り及び床面積の計算に必要な程度)を記入する。 ② 室名等を記入する。 ③ 建築物の出入口及び断面図の切断位置を図示する。 ④ 設備用シャフトの位置を図示し、PSと記入する。
(2) ２階平面図 1/200	⑤ １階平面図兼配置図には、次のものを図示する。 イ．地下１階部分(電気・機械室の位置を図示し、床面積を記入する。) ロ．ドライエリアの位置 ハ．駐車場(台数及び出入口を明示する。) ニ．通路・植栽等
(3) 基準階平面図（３～７階） 1/200	⑥ フロント・事務室、ロビー、受付ホール、スタッフルーム、ロッカールーム、トレーニングルーム、エアロビクススタジオ、屋内プール、コーヒーショップの床面積を記入する。 ⑦ 客室については、次のものを図示する。 イ．代表的なシングル１室の室内プラン及びその床面積 ロ．代表的なツイン１室の室内プラン及びその床面積 ハ．各客室の出入口、設備用シャフト ニ．シングルの表示(S_1、S_9～S_{18}) ホ．ツインの表示(T_1、T_3、T_9) ⑧ 基準階平面図は、３階とする。 ⑨ 直下階の屋根、ひさし等となる部分を図示する。
(4) 断面図 1/200	① 切断位置は、屋内プールを含み、建築物の全体の立体構成(地上１～７階)がわかる断面とする。なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 塔屋を除く建築物の高さ、階高、天井高、１階床高及び主要な室名を記入する。 ③ 梁及びスラブの断面を図示する。なお、地下１階及び基礎については図示しなくてよい。

2．計画の要点等

次の①～④について、計画の要点等を記述する。なお、要求図面に該当箇所があれば、引出し線等により補足して明示する。
　① 建築計画(ゾーニング、管理・サービス動線、セキュリティ等)について、特に配慮したこと
　② 構造計画(構造種別、架構形式、構造上の特徴等)について、特に配慮したこと
　③ 建築物の環境負荷低減(熱負荷の抑制、省エネルギー・省資源等)について、特に配慮したこと
　④ 設備計画について、採用した空調方式とその理由

3．面 積 表

地上１～７階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

試験場	受験番号	氏名
	□□－□□□□□□	

設計課題

「設計課題（設計対象の建築物）」に関し、異なる機能を複合させた建築物を出題する従来の方式を改め、比較的シンプルな用途の建築物（主たる機能の部門とこれに関連する部門からなる建築物）とするなど、ゾーニングや部門間の動線に関する設計条件を簡素化した出題とする。

＜平成 20 年試験問題を例にした場合＞

ビジネスホテルの機能の部門とこれに関連する共用部門からなる出題とし、設計課題は、「ビジネスホテル」とする等簡素化を図るものとする。

所要室

「設計条件」における「所要室」に関し、室構成や床面積を細かく指定し、これに従った設計図書の作成を要求する従来の方式を改め、室構成や床面積を大括りの設定とするなど、設計の自由度を高める出題とする。

＜平成 20 年試験問題を例にした場合＞

① 主要な室のみを与えるものとする。（ a の部分の室名等は与えず、受験者が適宜計画するものとする。）

② 室の床面積については、与条件として設定する部分を減らす。（ b の部分は設計する建築物の規模、用途、所要室の特記事項等から受験者が計画する。）

③ 異なる機能を複合させた部分（ c の部分）を減らす。

４．所要室

室名		床面積	設置階	特記事項
ロビー		適 宜	○ 階	
客室	シングル（計 90 室）	特記事項により算定	○ 階	
客室	ツイン（計 15 室）		○ 階	
客室	車いす使用者用（計 5 室）		○ 階	
コーヒーショップ			○ 階	
守衛室			○ 階	
電気・機械室		適 宜	○ 階	

・上記の室については、特記事項から床面積を算定し、計画する。
・便所、倉庫その他必要と思われる室等は、適宜計画する。

特記事項の欄は、設計するに当たって、特に必要と思われる事項を提示する。

要求図面・面積表　（答案用紙（Ａ２判））

・ 配置図、平面図、断面図、立面図、伏図、矩計図等の図面のうちから４面程度
・ 面積表
　① 従来の要求図面に新たに図示させるもの
　　・耐力壁の位置等の構造計画に関するもの
　　・設備機器、設備シャフトの位置等の設備計画に関するもの
　② 新たに追加する図面
　　・梁伏図、矩計図等の構造計画に関する図面から１面程度

※追加する図面に応じて、従来の要求図面を減らし、合計で４面程度とする。

計画の要点等　（答案用紙（Ａ３判））

・計画の要点等（10 問程度）
　① 建築計画（ゾーニング、動線、景観への配慮等）
　② 構造計画（構造種別、架構形式、耐震計画等）
　③ 設備計画（空調設備、給排水衛生設備、防災設備、電気設備、環境負荷低減等）

①～③の計画に関し配慮した事項、周辺環境に対し配慮した事項などについて、記述（又は簡易な図示）をさせる（１問あたりの記述のボリュームは従来と同程度とし、10 問程度）。

（注）上記以外の設計条件（敷地及び周辺条件、建築物の階数・床面積、駐車場台数等）については、原則として従来と同様に設定するものとする。